**タトゥーに関する日本とアメリカの大学生の見解の相違**

シェルビー・ライドン

カリフォルニア州立大学モントレーベイ校

**要旨**

最近アメリカではタトゥーをしている人をよく見かける。有名人のタトゥーも新聞や雑誌等によく掲載されている。歴史的にみると、タトゥーは罪人にする入れ墨として日本でもアメリカでも使われていた。さらに日本では入れ墨といえばヤクザと関連づける人も多い。そのため、日本では入れ墨をしている人は一般の銭湯や温泉には入れない。しかし、現代の日本でも入れ墨はタトゥーとし、ファッション感覚でタトゥーをする若者が増えてきた。この研究では日本とアメリカの大学生（新規卒業生も含む）はタトゥーに対してどのような見解を持っているのか。そして、アメリカと日本の大学生はタトゥーをするかしないのかをどのように決めるのかについてもっと深く知るためアンケート調査を行った。この調査にはアメリカ人４５名、日本人４５名が参加した。その結果、日本でもアメリカでもタトゥーには反骨精神や犯罪と繋がる否定的なイメージがあると見られている事がわかった。少ない数ではあるがタトゥーを肯定的に支持している日本人はタトゥーをファッションとみているのに対し、アメリカ人は創造性を示していると考えていることがわかった。また、アメリカ人は将来の就職等を考慮しタトゥーをするのを控えるが、日本人はタトゥーには家族や社会からの目を恐れ、全く関心を示さなかったのには驚いた。

**はじめに**

アメリカでのタトゥーは日本では刺青やタトゥー、また他の名前でも呼ばれている。タトゥーは現在両国で増々人気になっている。日本では入れ墨というとヤクザと関連づける人も多いが、ファッションでタトゥーをする若者が増えてきた。日本よりアメリカの方がタトゥーをしている人をよく見かける。両国ではタトゥーについての見解が違っているが、おそらく近い将来同じような見解をもつようになるのではないかと思う。

**１．研究の重要性** 私自身がタトゥーをしている。一年間日本の岡山大学に留学していた時、日本ではタトゥーをしている人は多くなかったことに気が付いた。しかし、アメリカのカリフォルニアでは、タトゥーをしている人をよく見かけた。そして、タトゥーに対して色々な社会的見解ももっと知りたいと思ったから。

**２．研究質問**

１．日本とアメリカの新規卒業生も含む大学生はタトゥーに対してどのような見　　解を持っているか。

２．アメリカと日本の大学生はタトゥーをするかしないかをどのように決めるか。

**３．研究背景** 3.1.　世界のタトゥーの歴史について古代エジプトでタトゥーをしているのは女性だけだった（Vail, 2008) 。タトゥーは強敵を威嚇するために、戦争のまじないとして用いられた（DeMello, 2014)。そして、紀元前2160年ごろには、タトゥーによって身が守られるという魔術的な要素もあった（Vail, 2008)。昔、マオリ族はタトゥーを「通過儀礼」として使い、タトゥーがない人は身分的地位が低かった（Gilbert, 2000、Pacific Islanders in Communication, 2003)。また、1820年ごろ、顔にタトゥーをしたマオリ人を集めるのが人気だった（Robley, 2012)。

3.2.　日本のタトゥーの歴史 日本では、1200年頃、アイヌ人は顔にタトゥーをした（アイヌ民族博物館）。江戸時代[[1]](#footnote-1)の「水滸伝」にはタトゥーをしている武士が出ている(Kitamura, 2005)。その後、江戸時代にタトゥーは罪人を見分けるのため罪を犯した人に使われた (Kitamura, 2005)。その他に、浮世絵の芸術家が華美な場面や架空の動物をタトゥーにした (Sekiguchi, 2000)。これらが刺青と呼ばれた。明治天皇[[2]](#footnote-2)は悪いイメージを危ぶみ、タトゥーを禁止する法律を出した（Kitamura, 2005)。最後は、1870年から1920年まで、日本のタトゥーアーティストは外国人にだけ、タトゥーを入れることができた(Gilbert, 2000)。

3.3.　アメリカのタトゥーの歴史 １８４２年に、ジェームス・オコネルが最初にタトゥーを入れた人として知られている (O’Connell, 1845) 。１９世紀には、タトゥーをしている人はサーカスやサイドショーの一部である「フリックショー」というアトラクションに出ていた（Gilbert, 2000）。１９４０年頃、日本人のタトゥーアーティストのおぐりかずおはノーマン・コリンス（セーラージェーリ）と出会った。そして、コリンスは第二次世界大戦中、また戦後のハワイで兵隊にタトゥーをした。その作風は日本の入れ墨に影響を受けている(Kitamura, 2001)。更に、アメリカでは不衛生なタトゥーショップで、「タフ」という若い人がタトゥーを入れた。また、監獄でもタトゥーがあり、手作りのタトゥーの器材が縫針、安全ピン、ペン、マーカーインク等で作られ始めた (Gay、 2002； Vail、 2008； DeMello、2000)。

3.4 アメリカと日本の文化におけるタトゥーの浸透 罰を犯した人がタトューを入れたギャングややくざに入った（Gay, 2002) 。第二次世界大戦後、やくざの犯罪率が増加した。タトゥーをする人が増えたが服の下に隠す人が多かった (Goodman, 1992)。最近では、2012 年に、橋本徹（大阪市長）が会社で働いている人を対象にタトゥーをしている人数の調査を行なった (JPD, 2012)。

アメリカでは、1804年に、ジャン・バプティスト・カブリはカーニバルで一番最初にタトゥーを入れた人として知られている（DeMello, 2014)。次の世紀に、タトゥーを入れた人々は、サーカスやサイドショーで見受けられた。第二次世界大戦中と戦後に、船員の間でよくされるようになった（Kitamura、2001；DeMello、2014)。1960年頃は、タトゥーの復興期だった。２０年後、パンク文化を始まった。９０年代以降タトゥーを入れた有名人が増えた。（Vail, 2008)。

3.5タトゥーの統計 1999年、日本人のほりかずという有名なタトゥーアーティストの顧客のうち、99％がヤクザであった。１０年後に、その数は半分に減った（Yamada, 2009)。2007年に、入れ墨があるヤクザは102,000人であった。2012年,　大阪府は社会人にタトゥーのアンケートをしたところ、34,000人中、タトゥーを入れた人は110人だけであった。そのパーセンテージは　0.３％未満だった（JDP, 2012)。

アメリカでは、2013年、アメリカの総人口の14％（45 百万人）がタトゥー をしている。コーソによれば男性は女性より15％多くタトゥー をしている（Statistics brain、N.D)。そして、84％のタトゥーをしている人は後悔していない。しかし、タトゥーをしていない人の１／３はタトゥーをしている人は悪いことをすると思っている(Corso, 2008)。最後に、女性は男性より痛みに強い(Sanders, 2008)。

**4. 研究**4.1　調査の対象この調査には114人の新規卒業生も含む大学生が参加した。日本人45人、内男子20人、女子25人と、アメリカ人69人、内男子23人、女子46人である。大多数は20歳から23歳までの女性だった。

4.2　調査方法 アンケート調査を日本語と英語で作成し、オンラインで データを集めた。

**5.　結果** 5.1　研究質問１：日本とアメリカの大学生（新規卒業生も含む）はタトゥーに対してどのような見解を持っているか。

この研究質問に対し、５点のスケールで回答者に我々の社会ではタトゥーについてどう思われているかを尋ねた。１の非常に肯定的から５の非常に否定的までである。アンケートの質問は一般的に、あなたの社会ではタトゥーについてどう思われているかを尋ねった。

**図1：社会ではタトゥーについてどう思われている**

図1からわかるように、アメリカ人は肯定的な意見と否定的な意見に分かれるが、日本人は圧倒的に否定的な意見が多い。

次は、あなたの社会では、タトゥーを入れる人は何々というイメージをもつ傾向があるという質問である。

**図2：社会ではどんなイメージ**



日本とアメリカの回答者はタトゥーを入れた人について何かに反抗心を表現している傾向がある (図2参照)。少し違い質問は「あなた**[回答者]**の意見として、タトゥーを入れる人は何」を尋ねった。日本人の60％が怖いと思っているが、アメリカ人ではわずか2％だった。一般的に、両国共 タトゥーを入れている人には肯定的なのは少数である。

次の質問は下記の年齢層の中で、タトゥーを入れる一番適切な年齢はどれですか。回答者は六つのカテゴリーから回答を決めなければならなかった。そのカテゴリーは図3のグラフに表した。両国の回答者は年齢は関係ないという意見が多かったが、どちらの国でも15歳から18歳まではタトゥーを入れるには適切な年齢ではないとしている。

**図3：適切な年齢層**



5.2 研究質問１のまとめ

多くの日本人は、タトゥーに対して否定的なイメージを持っているが、両国の文化においてタトゥーをしている人は、何かへの反抗 心を表していると考えられている。

日本人はタトゥーをしている人を怖がっている。しかし、アメリカ人 は2%の人だけが怖がっている。

アメリカ人はタトゥーをしている人に対しては面白い人だと思っていることも分かった。両国共にタトゥーをした人は冒険的であると思われているようだ。そして、両国ともタトゥーを入れる年齢は関係ないという見解を示したが、15歳から18歳まではタトゥーを入れない方がいいともいっている。

5.3研究質問２：アメリカと日本の大学生はタトゥーをするかしないかをどのように決めるか。

**図４：タトゥーを入れているか、いないか回答者**



回答者に「タトゥーを入れているか、いないか」を尋ねた。私がこの質問を尋ねた理由は、タトゥーをしている人としていない人では意見が異なると思ったからだ。その結果も見出したかった。アメリカ人の回答者は、タトゥーをしている人としていない人の割合はだいたい等しかったが、日本人は全体の７％にあたる３人だけがタトゥーをしていた（図４参照)。日本人の回答者のうち、タトゥーを入れている人の数が非常に少なかったから、この結果の分析は少し難しかった。

次は、有名人以外で、18歳から25歳までの女性と男性のなかで、タトゥーを入れている人を何人知っているか、と質問した。

**図５：タトゥーを入れている人を何人知っているか**



図５分かるように、アメリカ人は半分ぐらいの人がタトゥーを入れている人を　10人以上知っている。日本人では、日本では、タトゥーを入れている人を知っている人は少なかった。「0」と答えた日本人の回答者は28％ぐらいだった。

5.4　タトゥーをしたいかしたくないかの理由

**図６：タトゥーをしたくなかった理由**

26人のアメリカ人と42人の日本人になぜタトゥーをしたくなかったのかと質問した。アメリカ人と日本人の42％は将来のことを答えて、タトゥーをしたくないと思っていることが分かった。アメリカ人は日本人と違って痛さや針の恐れより、どのようなタトゥーを入れるかを重視しているようだ（図６参照）。

次の結果は圧倒的なタトゥーを入れない理由についてである。アンケートの質問はどうしてタトゥーを入れないのかについての意見である。両国の回答者は将来のことを考えてタトゥーを入れないと答えた。日本人の60%くらいとアメリカ人の91%はその意見を持っていた。また、日本人は家族の意見にも敏感であることが分かっている。

**図７：タトゥーをしたかった理由**

次に、タトゥーを入れているアメリカ人の回答者１９人と日本人の回答者３人が、なぜタトゥーを入れたのかという質問をした。３人の日本人はそれぞれ異なる理由を答えたのに対して、大多数のアメリカ人の理由は、過去や大切な人、ペット等を忘れないためだと答えた（図７参照）。

次に、「どうして18歳から25歳の人はタトゥーを入れるのか」を尋ねた。日本人とアメリカ人の回答者はともに、過去を忘れないためや自分の家系や家族に対する誇りだと答えたが、アメリカ人はタトゥーのデザインも大切であると考えていることがわかった。

5.5　ビジュアルの研究

**図９：アメリカナスタイルの船**



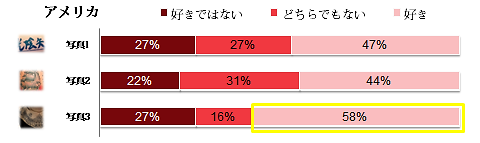
**図１０：細かいデザインのチェストピース**

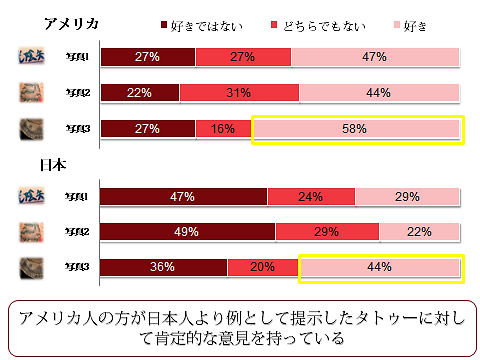
**図８：漢字のタトゥー**



これらの写真は様々なタトゥーデザインを示している。図８は日本語の漢字の下に細い矢があるもの、アメリカーナスタイルの船と細いチェストピースというタトゥーである。これらのタトューは場所や色、スタイルと性別によって違う。私は回答者にこの写真を５点のスケールでどのくらい好きか好きではないかを尋ねた。コメントセクションで、両国の回答者は何で好きか好きではない理由を説明した。

**図１１：アメリカのビジュアル研究の結果**



**図１２：日本のビジュアル研究の結果**

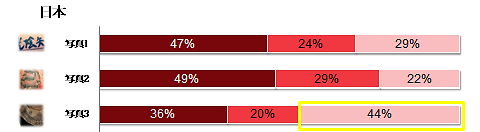


図１１から分かるように、アメリカ人の方が日本人より提示したタトゥーに対して肯定的な意見を持っている。両国共に３番が一番好きなデザインだった。更に、面白いことは日本語での漢字のタトゥー（図8参照）は日本で入れたにもかかわらず、日本人があまり好きではなかった。そのタトゥーは私のタトゥーである。しかし、アメリカ人の回答者は外国語のタトゥーが好きなように見えた。

5.6　研究質問２のまとめ 両国ともタトゥーを入れる理由はおもに過去を忘れないためであり、タトゥーを入れない理由は、将来のことを考えるからだということが明らかになった。そして、過去を忘れないためにタトゥーを入れているというアメリカ人も多数いた。 両国ともタトゥーについて色々な事からプレッシャーを感じているが、日本人の方がアメリカ人より家族や友達の意見は大切だと思っているようである。例えば、多くの日本人は「親からもらった体を傷つけるのはいけない」という意見を書いた。私はこのポイントは非常に面白いと思っている。

5.7　回答者の引用 両国の回答者が色々なコメントを書いたが、大切な意見があった。「私はアメリカに留学中に多くのタトゥーを目にし、驚きました。文化の違いだと思い、受け入れるようにした」という日本人の回答もあった。他の日本人は「刺青を入れている人、すなわちヤクザと連想する人も多いようにと思う」と書いた。

アメリカ人の回答者からも興味深い意見があった。例えば、「仕事場はタトゥーを受け入れなければならない」や、「タトゥーのネガティブなイメージは変わってきている」と書いた。そして、「二人は同じタトゥーをしているが、違う意見を持っているかもしれないと思う」と答えた。両国共に、タトゥーにはまだ否定的なイメージがあるけれど、人はそのイメージについて変わって欲しいと思っていることも分かった。

**6.　結論** 私たちが普段思っているように、アメリカ人の方が日本人よりタトゥーを入れているという事が分かり、タトゥーを入れていない人の理由として将来のことやタトゥーを入れるときの痛みを恐れていないようである。その上、日本とアメリカの社会において、タトゥーに対する考え方は未だに否定的だ。更に、タトゥーは反抗心や犯罪にも関係すると認識されていることも分かって来た。

また、日本人はタトゥーを入れている人を恐れている、アメリカ人はタトゥーを入れている人を面白い人と言っていることは興味深いと思っている。

両国共にタトゥーを入れるのに年齢は関係ないとしていて、タトゥーを入れる理由は主に過去を忘れないためだということである。両国ともタトゥーを入れない理由は、主に将来のことを考えているからのようである。結論として、人のタトゥーに関する見解は変わって来ているようだが、依然タトゥーの否定的なイメージは拭いきれないようである。

**7.　 研究の限界点と将来の研究課題** 限界について、様々なことが明らかになった。例えば、日本人の回答者の中で、タトゥーを入れている人が少なかったことである。そして、回答者の大多数が日本の西にある岡山県という一つの県の在住者であったことだ。将来の研究として、もっと多くのビジュアルの研究や人と‘直接インタビューをしたり、年齢層が高い人も含めた認識調査をしてみたいと思っている。更に、都会や小さな都市、田舎などといった幅広い地域の日本人にも回答してもらいたい。また、できることなら、日本人とアメリカ人の彫師にインタビューをしてみたいと思っている。

**8.　参考文献**

Atkinson, M. The Sociogenesis of Body Art.Canada 1971: Toronto Press.

Corso, R. (2008). The Harris Poll, Harris Interactive.

[http://](http://www.harrisinteractive.com/vault/Harris-Interactive-Poll-Research-Three-in-Ten-Americans-with-a-Tattoo-Say-Having-One-Makes-Them-Feel-Sexier-2008-02.pdf)[www.harrisinteractive.com/vault/Harris-Interactive-Poll-Research-Three-in-Ten- Americans-with-a-Tattoo-Say-Having-One-Makes-Them-Feel-Sexier-2008-02.pdf](http://www.harrisinteractive.com/vault/Harris-Interactive-Poll-Research-Three-in-Ten-%20%20%09Americans-with-a-Tattoo-Say-Having-One-Makes-Them-Feel-Sexier-2008-02.pdf)

DeMello, M. (2000). Bodies of Inscription*.* Duke University Press.

DeMello, M. (2014) Inked: Tattoos and body art around the world.Santa Barbara, CA: ABC-CLIO.

Fischer, L. (1998*).* Irezumi: Tattoo, taboo, and the female body*.* Post Script: Essays in Film and the Humanities, 18(1), 11-23.

Gay, K. (2002). *Body marks: tattooing, piercing, and scarification.* Brookfield: Millbrook Press.

Gilbert, S. (2000). *Tattoo history: A source book: An anthology of historical records of tattooing throughout the world.* New York: Juno Books

Goodman, R. (1992). *Ideology and practice in modern japan.* New York, NY: Nissan Institute.

Kato, Y. (2012). *Japan Daily Press.*

<http://japandailypress.com/?s=Tattoos>

Kitamura, T. (2001*). Bushido: Legacies of the Japanese Tattoo.* Atgen, PA: Schiffer Publishing Unlimited.

O’Connell, J. (1846). *The Life and Adventures of James F. O'Connell, The Tattooed Man. Providence: J.F. Moore, Printer.*

Sekiguchi, T. (2005). Horiyoshi iii Yokohama, Japan*. Time International, The Best of Asia,* 60-59.

Vail, D. A. (2008). *Customizing the body: The art and culture of tattooing.* Philadelphia, PA: Temple University Press.

Yamada, M. (2009) *Westernization and Cultural Resistance of Tattooing Practices in Contemporary Japan.* Indiana University.

<http://opus.ipfw.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=1006&context=sociol_facpubs>

アイヌ民族博物館

<http://www.ainu-museum.or.jp/index.html>

日高,旺. (2005). 黒潮の文化誌. 鹿児島: 南方新社.

1. 江戸時代は1603年から1868年まで [↑](#footnote-ref-1)
2. 明治時代は1868年から1912年まで [↑](#footnote-ref-2)